

「宮城県を元気にする高知応援隊」に参加して

(株)第一コンサルタンツ 調査2課 西岡 徹

目的

宮城県に対し、「心からのおもてなし」を行い、被災地の皆さまに元気になって頂く。

活動内容

高知の食材での炊き出し、体操教室、よさこい踊り等の実施。

現地での片付け等のボランティア活動へ参加。

被災地の状況を実際に把握・確認し、南海地震対策に役立てる。

支援フォーラムに参加された皆さまからの支援物資を被災地に届ける。

日程

- ・出発日：平成 23 年 6 月 17 日（金）
- ・帰高日：平成 23 年 6 月 20 日（月）

1 日目 いざ宮城へ出発

高知（空路） 東京（新幹線） 宮城県へ

高知応援隊総勢 57 名、宮地隊長のもと一致団結して宮城県へ出発。（龍馬空港 7 時 35 分発）

東京から新幹線で仙台へ。福島を過ぎたあたりから、車窓から見える景色にブルーシートで覆われた住宅が見られ段々と被災地に近づいてきたと感じる。

仙台に到着。（13 時 34 分着）仙台の街は震災の

影響を感じさせないような賑わいである。

ここで先発隊（車運搬）と合流、貸し切りバス・支援物資の車 2 台等で被災地を視察。



テレビ・新聞等に掲載していた光景が、画面・紙面の枠を超えて 360 度のパノラマで視界に入ってくる。今までにない自然の力を見せつけられた。

七ヶ浜は、住宅地が海岸のすぐそばにあり、津波により木造住宅は土台を残して全て無くなっている。



七ヶ浜の住宅跡

高知にも沿岸部に多くの住宅地が存在する。同じような規模の津波がきたらと思うと本当に怖くなった。まさに人ごとではない。

夜は地元婦人部のお世話で夕食会が開催され「めんずくらぶ」の方々による手打ちそばや散らし寿司をごちそうになった。また、「ありがとう」の言葉をいっぱい頂いた。元気を与えるつもりが先に元気をたくさん頂いた。

2 日目 避難所へ元気を届けに！

貸し切りバスに乗り込み南三陸町・気仙沼市へ。途中、高速道路が渋滞、原因はボランティア参加の車によるものらしい。

海岸に近づくにつれ被害が大きい。

南三陸町の街はまともなものはない。想像を絶する光景である。テレビでよく映っている防災本部の姿が被害のすごさを語っているようで印象的であった。



南三陸町の光景



防災本部

炊き出しの場所は、高台に位置する志津川高校。避難所は講堂の1階部分で100人程度の方が避難所暮らしをされている。運動場には、仮設住宅58世帯分も建設されている。



志津川高校の校庭

炊きだしに関する被災地からの情報が2点3点して段取りが変わってしまう。役員の皆さんは段取りに大変であったが、団員一人一人が前向きな気持ちで行動。予定されていた食事も全て提供できた。当社の社員も大活躍！率先して調理を行い、みんないい汗をかいた。



調理風景



炊きだしの状況

メニューは土佐赤牛カレー・野菜スープ・唐揚げ・ナスのタタキ・トマト・飲み物。飲み物はお茶以外にリープルを提供した。リープルはヨーグルト系飲料で高知の企業が製造、東北では全く馴染みのない商品。私が小学生の頃に、よく飲んだ懐かしさを感じる飲み物である。子供たちに勧めるが初物には抵抗感がありあまり人気がない。が、年配の方々に結構人気、食事の提供のあと講堂に飲み物をケースに入れて持って行くと「リープルがおいしかった」とリクエストが多く、あっという間に完売。

炊き出しのあとはスポーツMAX鈴木さんによるスポーツ教室。テニスボールをつかったストレッチなどを行い大盛況。子供から年配の方まで体を動かしたりフレッシュ！笑顔がこぼれていた。



スポーツ教室

おとりは、「よさこい踊り」。これがスポーツ教室に負けないくらいの大好評。隊員の練習は、朝のバスの中と校庭で5分ほど。ほとんどぶっつけ本番で挑み、まともに踊れなかったが被災地の皆さんも一緒になって踊って、ほんとうに喜んで頂いた。「よさこい踊り」が全国区になっている

ことを改めて実感した。



夕方には栃木のボランティアの方々が炊きだしを開始、かき氷が子供たちに大人気。栃木の方のご厚意で我々もごちそうになった。避難所の皆さんからいっぱい「ありがとう」の言葉を頂いた。最後に、避難所の皆さんとお別れの挨拶をおこない志津川高校をあとにした。



夜は、松島町の有志の方々の主催で、宮城と高知の交流会を開催。地元の方からは、高知から宮城のために来てくれたことに対する感謝の言葉をいっぱい頂いた。また、宮城で見た現状を高知で、多くの人々に伝えて欲しいと話されていた。2日目も「ありがとう」の言葉をいっぱい頂いた。



3日目 ボランティア活動!

松島町の宿舎で8時から応援隊の解散式を行う。「今回の経験を今後活かそう!」との隊長の挨拶のあと、当社の元気印!原田副隊長補佐の一本締めで無事終了。ここからは、本日の帰高組、明日の帰高組(第一コンサルボランティア隊10名)、震災に関する調査団に分かれての行動となる。



我々、ボランティア隊はタクシーで多賀城市へ移動。ボランティア本部は役場の敷地内に設置されていた。このシステムは、参加の受付(9時)後、本部で待機。本部スタッフから作業内容・必要人数を現場ごとに発表し、作業に必要な人数を待機順に指名し現



地に運んでくれる。長靴や手袋など作業に必要な道具はこちらで一通り揃っている。今は住宅などの泥だし・片付けが多いよう

である。

午前中は、公民館内の体育館の床清掃を担当することになった。ここは、ガレキの中から見つかったアルバムなど大切にされている品々を展示し、被災者の方々に探していただく場所となるようだ。当社からは7名+宮崎氏(創友)のほか6名の計14名が第一陣として現地へ出発。途中、第二陣として8名が加わり総勢22名で作業。やはり気持ちの入った人の力はすごい!あっという間に完了してしまった。





清掃後の体育館

午後からは、住家の片付けの応援として参加。当初5名の要請に対してこちらから「10人行きましよう！」と投げかけ受け入れてもらう。

住家は木造2階建てで130㎡程度の規模。所有者の方に話を聞くと、津波は床上程度と思いましたが、実際には1階の軒部分まで浸水し、津波の去った後には、家に車と大木が刺さっていたようだ。近くの



民家のため撮影は控えました。

既に取り壊した住家の部分では、バスが数台折り重なるように建物にぶつかっていたとのこと。

担当する作業は、台所の清掃・泥だし・廃材等の運搬。台所の片付けはかなりの異臭。泥の中にはガラス等の破片が混じり、分別に時間がかかる。

作業も無事時間内に終了、所有者からは「ありがとう」の言葉を頂いた。また、先に作業をしていたボランティアリーダーからも高知の力はすごいとおほめの言葉を頂いた。こういった片付けに人手のかかる家屋が周囲にまだかなりある。復旧にはまだまだマンパワーが必要と強く感じた。

作業も無事時間内に終了、所有者からは「ありがとう」の言葉を頂いた。また、先に作業をしていたボランティアリーダーからも高知の力はすごいとおほめの言葉を頂いた。こういった片付けに人手のかかる家屋が周囲にまだかなりある。復旧にはまだまだマンパワーが必要と強く感じた。



民家の片付けチームのみなさんと

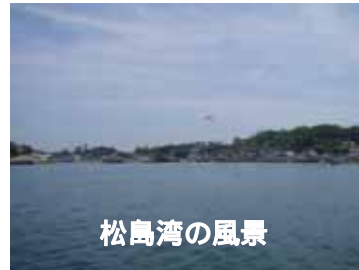
4日目 松島へ

最終日、地元の方から時間があれば「是非、松島遊覧船へ」とリクエストがあり、第一コンサルボランティア隊総勢10名で松島へ出発。



遊覧船内の風景

10時発の周遊観覧船に乗船、松島湾の島々を眺める。船内は、観光客はまばらであった。案内係の方によると、現状で震災前の1割から2割程度の観光客らしい。



松島湾の風景

松島町自体は、津波の被害は比較的少ない方であった。松島湾に点在する島々が防波堤となり、津波の威力を弱めたようだ。お土産屋などの一部は壊れているが、大半は既に復旧され営業している。昼ごろ、松島を後にするが、そのころには観光客の数も増えていたように感じた。

おわりに
先ずは、今回の応援隊に参加させて頂いた事に心から感謝します。今後の自分にとって大変貴重な経験になりました。近い将来に来るであろう南海地震に対して今以上に関心を持って取り組んでいきたいと考えています。

おわりに

先ずは、今回の応援隊に参加させて頂いた事に心から感謝します。今後の自分にとって大変貴重な経験になりました。近い将来に来るであろう南海地震に対して今以上に関心を持って取り組んでいきたいと考えています。

今回、応援隊に参加して特に感じたことは隊員のみなが凄く元気なこと。これは、多くの方が自ら志願による前向きな気持ち、それから宮城で出会った方々から頂いた「ありがとう」の感謝の言葉が大きかった。感謝の気持ちは人を動かす。「ありがとう」の言葉は、我々のモチベーションを確実に上げた。

当社が過去に担当した防災・避難施設については、新たな震災の想定のもと、機能・耐力の検証や改修の提案を行い、有効な施設にする手立てを講じる必要がある。



頑張れ東北！ 頑張れ宮城！

平成23年6月30日